

思いを歌声にのせて

近藤 朗

どうして涙があふれてくるのだろうか。子どもたちの邪気のない姿、体全体で思いつきり表現する姿に触れたからか。それだけではない。この一年、子どもたちの学びに向かう姿、学びを生かして働き掛ける姿を見てきていたこともあわせてのことだろう。学校でのリハーサルの時も県民会館での発表の時も、内容と歌声が私に襲い掛かり、走馬灯のように子どもたちの学びの姿が思い返され、心を打たれたのだと思う。

ミュージカル発表会。参観された保護者の皆さん、地域の皆さんはどのよう感じたでしょうか。参観されたある方からこんな話を聞きました。

「子どもたちの地域に対する思いが強烈に伝わり、涙が止まらなかつた。帰り道、高ぶった気持ちを抑えられずに思わず立ち飲みに寄ってしまった。新潟小学校の子どもたちに負けてはいられないと、自分の住む地域を見つめ、自分で行動を起こさなければと決意した。」更にこう続きます。「立ち寄った店でお会った客と意気投合し、その店の運営の仕方について話が盛り上がり、店に提案をしてきた。」

一人の小さな思いが人へ伝わり、その思いが膨らみ、練り上げられて提案へとつながる。とても素敵なことだと

思います。ミュージカルの中でも子どもたちはこんなことを言っていました。「みんなが教えてくれた。私たちにできることがあるんだ。」

「探していこう。僕たちだからできることを。」

「心配しているだけじゃ何も変わらないい。」

「みんなが考えること。行動を起こすこと。手を取り合っていくこと。ずっと。ずっと。ずっと。」

「未来を創りだそう。」

ミュージカルが終わって今年度四月の学校日より巻頭言を思い出しました。

学びを歌と踊りで振り返る、思いを歌と踊りで表現するミュージカルへの取組をメインに据え、教育活動を展開していくことを表しました。

社会の中の一員という自覚を育て、心、頭、体の成長を促していきたい。自己表現する緊張感、仲間との協働を通じた達成感、自己肯定感など、多くの「感」を味わわせたい。挑戦し、開拓し、明るい未来を創造する態度を育てたい。少し欲張りかもしれませんが、私の中にわき上がってきます。

今もフェイスブックの映像を見ながら目頭を熱くしています。